

令和4年

火災・救急活動の概要

【確定版】

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は 15 件の増加

令和 4 年中に高槻市内で発生した火災は 70 件で、前年の 55 件と比べ 15 件の増加となった。

出火率（人口 1 万人当たりの出火件数）は 2.01 で、全国平均（令和 3 年中）2.78 と比べ 0.77 ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が 60.0%

令和 4 年中の火災件数のうち建物火災が 42 件で、全火災の 60.0%を占めている。

※ 件数割合の%は小数第 2 位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

建物火災 42 件 (60.0%)

車両火災 9 件 (12.9%)

その他の火災 19 件 (27.1%)

(3) 焼損面積

焼損床面積及び焼損表面積が増加

建物火災は 42 件で前年の 25 件から 17 件増加し、焼損床面積は 1,143 平方メートルで、前年の 452 平方メートルに比べ増加となった。

焼損表面積は 246 平方メートルで、前年の 59 平方メートルに比べ増加している。

(4) 損害額

損害額は増加

令和 4 年中の損害額は 141,256 千円で、前年の 41,673 千円から比較すると 99,583 千円の増加となった。

1 件当たりの損害額は 2,018 千円で、前年の 758 千円より 1,260 千円の増加である。

※ 損害額の整数第 3 位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者は 1 人

令和 4 年中の火災による死者は 1 人（前年 2 人）で、負傷者は 14 人（前年 5 人）であった。

また、負傷者 14 人のうち、重症者は 2 人（前年 0 人）、中等症者が 4 人（前年 1 人）、軽症者が 8 人（前年 4 人）、30 日死者が 0 人（前年 0 人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎令和 4 年は「たばこ」「放火（疑いを含む）」が 1 位に

ア 令和 4 年中の全火災（70 件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第 2 位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

たばこ 9 件 (12.9%)

放火（疑い 2 件を含む） 9 件 (12.9%)

こんろ 7 件 (10.0%)

電気機器 4 件 (5.7%)

たき火 4 件 (5.7%)

配線器具 3 件 (4.3%)

排気管 2 件 (2.9%)

電灯・電話等の配線 2 件 (2.9%)

ストーブ 1 件 (1.4%)

電気装置	1件 (1.4%)
マッチ・ライター	1件 (1.4%)
溶接機・切断機	1件 (1.4%)
灯火	1件 (1.4%)
その他	15件 (21.4%)
不明・調査中	10件 (14.3%)

イ 建物火災 (42件) を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

こんろ	7件 (16.7%)
たばこ	5件 (11.9%)
放火	5件 (11.9%)
配線器具	3件 (7.1%)
電気機器	2件 (4.8%)
ストーブ	1件 (2.4%)
電気装置	1件 (2.4%)
電灯・電話等の配線	1件 (2.4%)
溶接機・切断機	1件 (2.4%)
灯火	1件 (2.4%)
その他	8件 (19.0%)
不明・調査中	7件 (16.7%)

(7) まとめ

令和4年中の火災は、70件で前年の55件に比べ15件増加している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が42件で前年より17件増加しており、焼損床面積や損害額も前年より増加している。

火災による死者は1人で、前年より1人減少している。負傷者は14人で、前年より9人増加している。

出火原因は、「たばこ」「放火(疑いを含む)」が9件で1位、「こんろ」が7件で3位、と続いている。「放火(疑いを含む)」は、前年の9件と同数の9件であったが、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

令和4年火災概要(対前年比)

区 分	単位	令和4年	令和3年	増減 (C)	増減率 (%)		
		(A)	(B)	(A) - (B)	(C) / (B) ×100		
出火件数		70	55	15	27.3%		
建物火災	件	42	25	17	68.0%		
林野火災		0	1	△ 1	—		
車両火災		9	8	1	12.5%		
その他の火災		19	21	△ 2	△9.5%		
焼損棟数			62	33	29	87.9%	
全 焼	棟	8	2	6	300.0%		
半 焼		3	1	2	200.0%		
部分焼		17	5	12	240.0%		
ぼ や		34	25	9	36.0%		
焼損面積	建	床面積	m ²	1,143	452	691	152.9%
	物	表面積	m ²	246	59	187	316.9%
		林 野	a	0	7	△ 7	—
死 者	人	1	2	△ 1	△50.0%		
負傷者(30日死者含む)	人	14	5	9	180.0%		
り災世帯		62	35	27	77.1%		
全 損	世帯	10	3	7	233.3%		
半 損		2	0	2	0.0%		
小 損		50	32	18	56.3%		
り災人員	人	137	77	60	77.9%		
損害額		141,256	41,673	99,583	239.0%		
建物(収容物含む)	千円	133,096	39,860	93,236	233.9%		
林野		0	0	0	0.0%		
車両		7,749	459	7,290	1588.2%		
その他(爆発含む)		411	1,354	△ 943	△69.6%		
出火率		件	2.01	1.57	0.44	28.0%	
年	令和4年			令和3年			
主な出火原因	1	たばこ	9件	1	放火(疑いを含む)	9件	
	1	放火(疑いを含む)	9件	2	こんろ	7件	
	3	こんろ	7件	3	たばこ	6件	
	4	電気機器	4件	4	たき火	5件	
	4	たき火	4件				

過去5年間の火災状況

区分別		年別	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
火災件数			62	63	70	55	70
内 訳	建 物		38	36	48	25	42
	林 野		0	1	0	1	0
	車 両		4	6	10	8	9
	その他		20	20	12	21	19
	爆発 (上記に含む)				1		1
焼損棟数 (棟)			55	52	71	33	62
内 訳	全 焼		8	11	6	2	8
	半 焼		3	2	5	1	3
	部分焼		12	5	16	5	17
	ぼ や		32	34	44	25	34
焼損面積	建 物	床面積 (㎡)	687	1,457	807	452	1,143
		表面積 (㎡)	177	25	127	59	246
		林 野 (a)	0	8	0	7	0
り災世帯 (世帯)			39	37	75	35	62
内 訳	全 損		7	5	14	3	10
	半 損		4	1	7	0	2
	小 損		28	31	54	32	50
り災人員 (人)			78	88	148	77	137
損 害 額 (千円)			91,007	129,927	125,651	41,673	141,256
内 訳	建 物(収容物含む)		90,630	77,119	120,988	39,860	133,096
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		22	7,008	4,065	459	7,749
	その他 (爆発含む)		355	45,800	598	1,354	411
死 者 (人)			1	3	2	2	1
負 傷 者 (人)			18	12	10	5	14
30日死者 (人)			1	1	0	0	0
覚 知 別 件 数			62	63	70	55	70
内 訳	火災報知専用電話 (119)		40	29	37	25	41
	加 入 電 話		1	2	3	0	1
	警 察 電 話		6	7	6	7	1
	事 後 聞 知		13	22	21	20	26
	そ の 他		2	3	3	3	1

2 救 急

(1) 救急出動件数

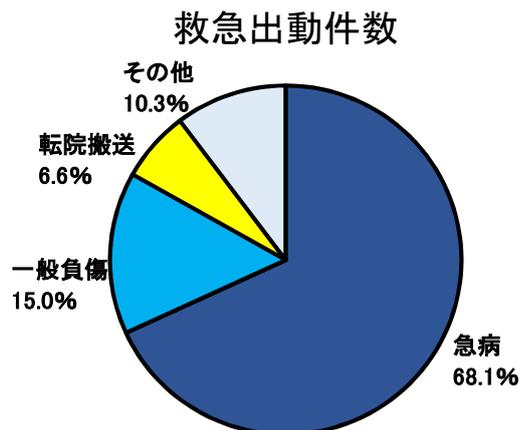
◎出動件数は増加

令和4年中の救急出動件数は23,776件で前年20,098件に比べ3,678件(18.3%)増加した。

また、1日平均にすると約66件、約22分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で16,203件(68.1%)、第2位が一般負傷3,572件(15.0%)、第3位が転院搬送1,558件(6.6%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は630件であった。



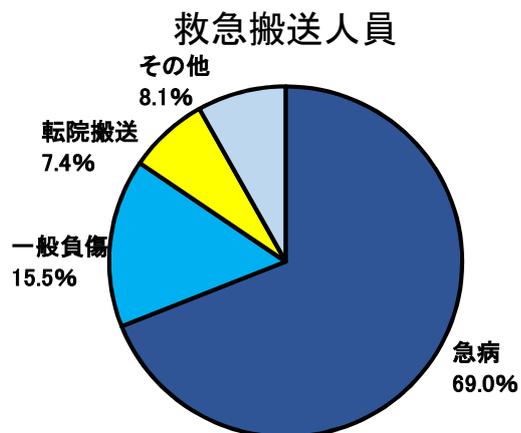
(2) 救急搬送人員

◎搬送人員は増加

令和4年中の搬送人員は20,941人で、前年17,745人に比べ3,196人(18.0%)増加した。

また、1日平均約58人、市民の約17人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

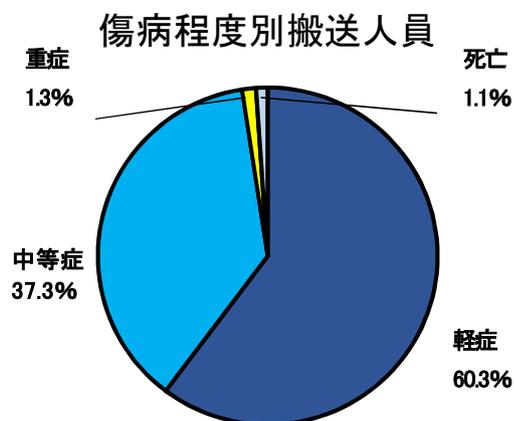
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で14,447人(69.0%)、第2位が一般負傷で3,249人(15.5%)、第3位が転院搬送で1,543人(7.4%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎軽症傷病者は12,617人

令和4年中の搬送人員20,941人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が12,617人(60.3%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が死亡、重症又は軽症以外のもの)が7,817人(37.3%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が278人(1.3%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が229人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

令和4年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出動件数及び搬送人員は大幅に増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症傷病者が多く、全搬送人員の60.3%を占めており、全国平均44.8%(令和3年中)に比べ高い割合を示している。

今後の救急需要に対し全国平均に比べ高い割合を示している軽症傷病者への対応として、救急車の適正利用について市民等への働きかけを継続して行う必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		4 年	3 年	増 減	4 年	3 年	増 減
合 計		23,776	20,098	3,678	20,941	17,745	3,196
火 災		47	22	25	12	3	9
自然災害		0	2	△ 2	0	2	△ 2
水 難		11	12	△ 1	1	1	0
交 通		1,266	1,261	5	1,215	1,171	44
労働災害		159	150	9	146	142	4
運動競技		120	92	28	121	93	28
一般負傷		3,572	3,166	406	3,249	2,926	323
加 害		86	56	30	76	44	32
自損行為		193	202	△ 9	131	139	△ 8
急 病		16,203	12,914	3,289	14,447	11,771	2,676
そ の 他	転院搬送	1,558	1,457	101	1,543	1,453	90
	医師搬送	370	603	△ 233	0	0	0
	資器材搬送	0	1	△ 1	0	0	0
	その他	191	160	31	0	0	0

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	15	29	11	0	1	175	0	159	390
活動件数(件)	15	9	10	0	1	151	0	66	252
救助人員(人)	4	9	7	0	4	151	0	20	195

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	95件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	47件	火災出動したが結果誤虚報であったもの
支援出動	942件	救急等の支援活動
その他出動	362件	上記以外(怪煙調査等)
合計	1,446件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出動の内容
島本町	47件	救急出動46件・その他出動1件(高速道路含む)
茨木市	14件	火災出動4件・救急出動9件・その他出動1件(高速道路含む)
摂津市	11件	火災出動3件・救急出動8件
枚方市	4件	火災出動1件・救急出動3件
大山崎町	10件	救急出動9件・その他出動1件(高速道路含む)
合計	86件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	1件	強風に係る災害対応

※ 全ての表中の△印は減少もしくは負数を表す